

博愛の里で踊るふるさとづくり (平成23年度認定)



宮国地区は、ソナフカの神(豊穰をもたらす神)が集まる聖地であるという伝承があるように、古くから農業に縁がある地区である。現在では、ほ場整備率9割以上を誇り、さとうきび・葉たばこを中心とし、畜産等が近年顕著になってきた。また、明治6年に難破したドイツ商船を救助した人々の博愛精神を称えた記念碑が建立されている博愛の里でもある。

宮国民俗芸能保存会は、宮国に伝わる民俗芸能クイチャーを保存し、後継者育成に努めることを目的に、昭和56年に設立された。クイチャーは、クイ(声)をチャース(合わす)という意味で、宮古島に古くから伝えられている民俗芸能である。宮国地区のクイチャーは、旧盆3日間の大綱引きの後に、雨乞いと豊作の祈願のために、円を組み男女が交互に謡い踊るもので、楽器を用いない昔ながらの伝統を継承している。

本会は、宮古島内にとどまらず、島外・県外のようなイベントにも積極的に参加するなど、その活動は地域内外の交流に寄与しており、【博愛の里で踊るふるさとづくり】に取り組んでいる。



宮古ふるさとまつり



宮古ふるさとまつり



宮古ふるさとまつり



クイチャーフェスティバル



クイチャーフェスティバル



宮古水まつり